

2026年3月9日

一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構

(J-ABS:ジェイエイブス)

逆境を越えて、未来を切り拓く 南スーダン女子ソフトボール選手（19歳） オリンピックを夢見て単独初来日、武者修行へ

長年紛争が続いた南スーダンで育ち、2013年・2016年の武力衝突では家族と離れて避難生活を経験した南スーダンの少女、ジェニファーさんが、日本人が指導するソフトボールと出会い、才能を開花。現在は女子ソフトボール南スーダン代表の主力選手として活躍しています。

この度、サミージャパンマスタースカップ 2026(静岡県裾野市)から特別招待を受け、初めて来日することになりました。紛争地出身の若い女性アスリートが、国際大会に“特別枠”で参加するのは極めて異例です。

滞在期間11日間の主な活動は次の通り。

- ・ サミージャパンマスタースカップ大会参加(3月13日～15日)
- ・ 東京都内交流イベント「ジェニファー選手を囲む会」(3月16日18:00～)
- ・ 群馬県前橋市での小川晶市長表敬(3月19日11:00～)＊キャッチボールもする方向で調整中
- ・ 市内女子ソフトボールチームの練習特別参加(3月17日～20日 前橋育英高校、前橋女子高校)
- ・ 宇津木妙子・元全日本女子監督による激励、指導(3月18日13:00～前橋育英高校)
- ・ 学生・市民向け講演(3月20日9:30～@前橋女子高)

オリンピックを夢見る紛争地の少女が、ソフトボールを通じて未来を切り拓く“リアルなストーリー”。J-ABS(代表理事・友成晋也)は、スポーツを通じた国際交流・平和構築の取り組みの一環で、ジェニファー選手との接点をみなさまに提供いたします。特に3月16日東京都港区で開催するイベントでは、直接取材、インタビューなどが可能です。社会性・時事性の高い取材テーマとして、ぜひご注目ください。

記

1. ジェニファー選手プロフィール

氏名: ジェニファー・パスカーレ・オワン

(Ms. Jennifer Pasquale Owan)

国 籍: 南スーダン共和国

生年月日: 2006年9月26日(19歳)

職 業: 在ケニアの大学2年生

United States International University-Africa

情報システム技術専攻

競技歴: 2019年(当時13歳)、南スーダンの首都ジュバで友成監督が指導する南スーダン少年少女野球チームに参加。ソフトボールも始める。2022年7月にジュバで開催されたベースボールシップ

®教育セミナー受講。



2. 来日スケジュール/3月11日～21日(11日間)

11日(水) 成田着

*以降 3/15 までは、サミージャパンマスターズカップ実行委員会主催のプログラム

*J-ABS スタッフの中村未来(通訳可能)が3月16日までの全行程帯同

12日(木) 成田—東京(観光)—裾野市へ移動(宿泊先:時之栖ブルーベリーロッジ)

13日(金) 9:00～大会参加、18:30懇親会にてジェニファー選手の紹介

14日(土) 9:00～大会2日目

15日(日) 9:00～大会3日目 夕方以降、東京へ移動

16日(月) 日中:東京ディズニーランド体験

18:00～ジェニファー選手を囲む会(港区内某所) *個別取材、インタビュー可能
<プログラム>

18:00 開会 趣旨説明、出席者自己紹介

18:10 南スーダンの基礎知識(友成プレゼン)

18:30 スポーツと開発～私にとってのソフトボール(ジェニファープレゼン) *通訳あり

19:00～20:30 質疑応答・懇談

17日(火) 東京から前橋に移動

*以降は、前橋×南スーダンスポーツ交流実行委員会主催プログラム

*友成代表が以下全行程帯同(通訳可能)

14:00 前橋育英高校校長先生にご挨拶

15:00 前橋育英高校女子ソフトボール部練習に参加(1日目)

夜、実行委員会と懇親会

18日(水) 午前 市内文化体験・観光(赤城大沼、いちご刈り体験など)

13:00～ 前橋育英高校校女子ソフトボール部の練習参加(2日目)

宇津木妙子元全日本監督、応援に同校訪問。練習指導も。

19日(木) 9:45～ 山本一太群馬県知事表敬訪問

11:00～ 小川晶前橋市長表敬訪問(ジェニファー選手とキャッチボールするべく調整中)

15:00～ 前橋育英高校校女子ソフトボール部の練習参加(3日目)

20日(金) 09:30～ 前橋女子高にて「スポーツと平和」をテーマにしたトークイベント

登壇者:ジェニファー選手、友成代表理事

10:30～ 前橋女子高女子ソフトボール部練習参加

*友成一日監督、ジェニファー一日キャプテン任命によるアフリカ式練習体験

午後 東京へ移動

21日(土) 離日

以上

<取材申し込み方法>

取材日の前々日までに、次の8点を下記メールアドレスにお送りください。①お名前 ②所属先・部署 ③媒体名
④連絡先(電話番号) ⑤メールアドレス ⑥当日現地取材 OR 後日取材 ⑦ムービー撮影の有無 ⑧参加人数

【取材の問い合わせ】 J-ABS 報道担当:浦野英一 Email: pr@j-absf.org
*日中はメールでご連絡ください。急ぎの場合のみ:080-9802-7778
一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構 URL: <https://www.j-absf.org>
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-3-13 西新宿水間ビル 6F 電話 03-6777-0052

<お問い合わせフォーム> <https://www.j-absf.org/inquiry>



お問い合わせフォーム

補足説明資料

■ジェニファー選手来日の経緯

J-ABS の代表理事・友成は、前職 JICA 南スーダン事務所長時代、休日に若者たちに野球、ソフトボールを指導。紛争地こそ、野球を通じ、規律、尊重、正義を学ぶ人材育成が平和な国づくりに必要との信念で、2年間熱心に指導した中に、ジェニファー選手がいた。旧知の知り合いであるサミージャパンの代表取締役小林真由美社長から、シニア層向けの大会ではあるが特別招待枠として若い人材に来日してソフトボールを学ぶ機会を創るため、特別招待することをご提案いただき、ジェニファー選手を推薦した。

■J-ABSとは

一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構(Japan-Africa Baseball and Softball Foundation: J-ABS;ジェイエイブス)は、2019年12月に設立。代表理事友成晋也が、2003年に創業した元認定 NPO 法人アフリカ野球友の会の事業を継承した非営利団体。「野球のチカラでアフリカと日本の未来を創る。」をミッションに掲げ、「アフリカ55甲子園プロジェクト」を主軸事業として、アフリカの若年層の人材育成への貢献を目指す。2026年3月現在、アフリカ12か国の野球・ソフトボール連盟と協定を締結し、事業を展開中。

■アフリカ55甲子園プロジェクトとは

J-ABS の主軸事業。野球/ソフトボールを通じた人づくりと競技の普及を目的に、アフリカの54か国と1つの地域で全国大会(甲子園大会)開催を25年計画で広げていくプロジェクト。主に以下3つを行います。

- ①グラウンドの整備方法や野球/ソフトボール道具の支援などプレー環境の整備を支援
- ②野球/ソフトボールの技術に加え、スポーツマンシップを育む日本型野球の指導方法(ベースボーラーシップ®教育)を普及
- ③甲子園大会のようなアフリカ各国の国内大会を開催し、目標を持って挑戦する機会の提供
*これまでタンザニア甲子園大会(13回)、ケニア甲子園大会(3回)、ガーナ甲子園大会(2回)を開催。女子は野球もしくはソフトボールの大会を男子野球と同時に開催)

■南スーダンと前橋市

友成代表が前職 JICA の南スーダン事務所長時代に、前橋市と交渉し、東京オリンピックにおける南スーダンのホストタウンとなっていた。前橋市は、厳しい練習環境にある南スーダン陸上選手のため、オリンピックの一年半以上も前に前橋市に招聘し、市民との交流を行いながら選手たちをオリンピックに送り出したことは、全国的な話題になった。

■イベント概要(取材する場合は事前にご連絡をお願いします)

(1)「ジェニファー選手を囲む会」

日時:3月16日(月)18:00~20:30

場所:東京都内港区内/田町駅近接ビル内会議室

*場所は参加表明してくださった方に直接お伝えします。

(2)「平和とスポーツトークイベント」

日時:3月20日(金:祝日)9:30~10:30

場所:群馬県前橋市内/前橋女子高校

■J-ABS 代表理事 友成晋也（ともなり・しんや） プロフィール
一般財団法人アフリカ野球・ソフト振興機構(J-ABS)代表理事



1964年7月16日生まれ。東京都出身。大学卒業後、民間企業勤務を経て1992年 JICA(独立行政法人国際協力機構)に入職。1996年に JICA ガーナ事務所所員、以来タンザニア事務所次長、南スーダン事務所長など3カ国通算8年半アフリカで勤務。2020年末に JICA を早期退職し、現職。野球歴は慶應義塾高校、慶應義塾大学で体育会野球部に所属。ガーナ・ナショナル野球チーム監督、タンザニア・ナショナル野球チーム監督、南スーダン・青少年野球団監督を歴任。2023年4月より慶應義塾大学 SFC 研究所所員に就任。

著述等:「アフリカと白球」(2003年、文芸社)、「野球人、アフリカをゆく」(朝日新聞「論座」2019年5月～翌年8月、31回連載)、米ニューヨーク・タイムズが「アフリカに野球を根付かせた日本人」と紹介。2021年、ニューズウィーク誌日本版「世界が尊敬する日本人100人」が野球界から大谷翔平選手、ダルビッシュ選手とともに選出。2025年4月から開隆堂の文科省検定済英語の教科書(全国54万部発行)に人物と活動が紹介されている。